



<取材のお願い>

2023年2月3日

名古屋大学

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

アジア3カ国の未来の法律家が「法に関する基本的な考え方」を学ぶ ～法の支配に基づいた包摂的なアジアを目指して～

名古屋大学法学研究科・法政国際教育協力研究センターでは2月9日（木）～2月21日（火）、タシケント国立法科大学（ウズベキスタン）、モンゴル国立大学法学部（モンゴル）、ハノイ法科大学（ベトナム）から、大学生19名を招き、法学分野の研修プログラムを行います。

1990年代以降、旧社会主義諸国は、体制移行国として諸外国や国際機関からの支援の下、「法によって国家機関の恣意的な権力行使を制限することで、国民の自由を保障する」といった、市場経済体制に適した法制度の整備を進めています。しかし、それらの国では、「人に法を順守させる」という権威主義的な精神が色濃く残っており、また、「法の支配」に関して特定の国に都合のよい考え方を相互に押し付け合っているのが現状です。「法に関する基本的な考え方」の共通理解が欠けていることを背景として、国家や地域の亀裂が拡大しているのです。

こうした問題を解決し、「法の支配に基づいた包摂的なアジア」を目指すためには、法に関する基本的な考え方の中で「多様性を尊重すべき部分」と「多様性に配慮しつつも共通理解を醸成すべき部分」とを、相互尊重の態度でなされる対話によって探り出すことが必要になります。

本プログラムでは、参加者が「法に関する基本的な考え方」について自ら調べ、考えを伝え合うことで共通理解を深めます。海外からの参加者のみならず、本プログラムに参加する日本人学生にとっても、異なる歴史・文化を持つ人との対話を通じて、自国の法制度を相対化してとらえることができるようになることが期待できます。

プログラムでは、「法の支配」「立憲主義」「人権」「民主主義」などに関する講義やディスカッションのほか、名古屋地方裁判所、弁護士事務所等の訪問も行います。法曹関係者との質疑により、日本社会における法のあり方を認識し、出身国との相違や参考となる日本の事例を考察することが目的です。また、プログラム期間中の土曜日、日曜日には、日本の家庭にホームステイして、文化的な交流を深める機会とします。



今回の研修プログラムは科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」に採択されたものです。

＊「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」

科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。



<https://ssp.jst.go.jp/>

つきましてはご多忙中とは存じますが、講義やディスカッションの様子などを取材して頂きたいようお願い申し上げます。なお、取材ご希望の方はお手数ですが、担当者までご連絡頂ければ幸いです。

【実施内容】

●講義とグループディスカッション

「刑事訴訟法」、「民法」、「民事訴訟法」の講義及び個別テーマによるディスカッション
＊法の支配、立憲主義、人権、民主主義を意識した内容とする。

●名古屋刑務所訪問

●名古屋地方裁判所訪問（裁判傍聴）

●TMI 総合法律事務所、十六銀行・法務部訪問

●研究発表、研究に関するグループディスカッション

【研修日程概要】

2月9日（木）午後：名古屋大学中央図書館・法学図書館見学利用

2月10日（金）午前：オリエンテーション、開講式、講義「刑事訴訟法」、グループディスカッション

午後：アジア法資料館見学利用

2月11日（土）終日：ホームステイ

2月12日（日）終日：ホームステイ

2月13日（月）午前：日本学生（中学生・高校生）との意見交換会

午後：TMI 総合法律事務所訪問

2月14日（火）午前：グループディスカッション

午後：講義「民法」、グループディスカッション

2月15日（水）午前：十六銀行・法務部訪問



午後：名古屋刑務所訪問、事後学習

2月16日（木）午前：講義「民事訴訟法」、グループディスカッション

午後：名古屋地方裁判所訪問（裁判傍聴）、事後学習

2月17日（金）終日：研究発表、グループディスカッション

2月18日（土）終日：日本人学生（大学生）との意見交換会

2月19日（日）終日：日本人学生（大学生）との意見交換会

2月20日（月）オリエンテーション、閉講式

2月21日（火）帰国

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

名古屋大学法政国際教育協力研究センター（CALE） 担当：松岡

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

（担当：田中(禎)、太田）